

● ビジネスリスクマネジメント
Business

February 2010

2

Risk Management

特集

「国際ビジネス」のリスクマネジメント

外国人ビジネスマンとの コミュニケーション術

【好評連載】

ビジネスに活かす物語力

商品開発と物語

ミドルマネジャーのための教養講座

坂本龍馬のビジネスカ

業界別リスクマネジメント講座

アパレル業界(最終回)

小山龍介のブックガイド

Broaden Your Horizon!



Q&A

事故報告書における 事故レベルの分け方



私が働く介護施設(定員100名)では、事故が発生するとその程度を3段階で評価し、事故報告書に記入することになっています。しかし、提出された事故報告書を読むと、同じような事故が違うレベルに分類されていたり、相当大きな事故が軽度のレベルに判断されていたりと、書き手によってレベル分けの基準がバラバラです。こういう場合はどのように運用すればよろしいのでしょうか？



定員が100名前後の施設だと、年間に数百ものヒヤリハットや事故報告があげられるのが普通です。それらを1枚1枚細かく分析して改善策を練り、仕組みとして共有することは物理的に難しいでしょう。そのため、緊急性の高いものや重大な事故を招くようなものを優先して対応策を講じる必要が生じます。

事故報告書に事故のレベルを記載することは、この優先順位の判断に役立ちます。ただし、事故レベルの基準が明確になっていることと、その基準が事業所全体で共有されていることが条件となります。

事故レベルの基準となるのは、利用者(または患者)への影響度や施設(または事業所)にとっての重要度です。具体的には、次のような分け方をするとよいでしょう。

レベル1

発生した事故が原因で利用者に大きな影響があり、亡くなったり障害が残ったりした場合、もしくはその可能性があった場合

レベル2

入院や手術などが必要で、利用者に大きな負担をかけた場合、もしくはその可能性があった場合

レベル3

治療や処置を行い、経過を見守る必

要がある場合、もしくはその可能性があった場合

レベル4

外傷はなかったが痛みを感じた程度の場合、もしくはその可能性があった場合

ここで重要なことは、可能性も含めて判断することです。たとえば、通常の食事が普通食で、介助を必要としない要介護2の利用者が蒲鉾を喉に詰まらせる誤嚥事故が発生したとします。近くにいた介護職員がすぐに対応し、詰まらせた蒲鉾を吐き出させたとする

と、実際に起きた事故のレベルとしては「レベル4」に該当することになるでしょう。

しかし、もしそのとき介護職員が近くにいなかったら、窒息して最悪の場合死亡していたかもしれません。したがって、このケースは「レベル1」とするのが適切なのです。そうして、優先順位の高い事故として対応策を検討し、食事内容を改善するなどして大きな事故を未然に防ぐようにします。

図表 事故報告のレベル分け

事故レベル	内容
レベル1	事故が原因で利用者に大きな影響があり、亡くなったり障害が残ったりした場合、もしくはその可能性があった場合
レベル2	入院や手術などが必要で利用者に大きな負担をかけた場合、もしくはその可能性があった場合
レベル3	治療や処置を行い経過を見守る必要がある場合、もしくはその可能性があった場合
レベル4	外傷はないが痛みなどを感じた場合、もしくはその可能性があった場合

PROFILE

株式会社フォーサイトコンサルティング 代表取締役社長

浅野 睦 Makoto Asano

丸井・ブルデンシャル生命を経て、コンサルタントとして独立。業務改革、営業戦略、リスクマネジメントを中心に、一般企業から医療法人など、幅広くコンサルティング活動を展開。リスクマネジメント協会理事。近著に『変革期の介護ビジネス』(学陽書房)

